

第3学年 社会科実践

平成31年1月29日(火) 第5校時

第3学年1組35名(男子17名 女子18名)

指導者 広陵町立真美ヶ丘第一小学校 藏前 拓也

1 単元名

「昔の道具と人びとの暮らし ― まみいち今昔の暮らし交流会をしよう ―」

2 単元の目標

- 昔の道具やそれらを使っていたころの人々の暮らしの様子を調べ、人々の生活の今昔の違いや移り変わり、昔の生活における人々の生活には知恵や願いがあったことを、体験や聞き取りなどから見たり聞いたりして理解する。
(社会的事象についての知識及び技能)
- 昔の道具やそれらを使っていたころの人々の暮らしには、昔の生活における人々の知恵や工夫、人々の願いがあつて変化してきたわけを、調べたことを基に考え、適切に表現する。
(社会的事象についての思考・判断・表現)
- 昔の道具やそれらを使っていたころの人々の暮らしの様子に関心をもち、昔の道具や人々の暮らしの移り変わりについて調べたり考えたりしながら、意欲的に学習に取り組む態度を養う。
(社会的事象・学習への主体的な態度)

3 単元について

○教材について

本単元では、学習指導要領の内容(5)のうち、アについて扱い、昔の道具やそれを使っていたころの暮らしとその移り変わり、昔から地域に伝わる祭りや行事の様子、それらがどのように受け継がれてきたのかを具体的に考えられるようにすることを主な学習内容としている。

「昔の道具と人びとの暮らし」では、児童の祖父母や地域の高齢者が、児童たちと同じぐらいの年齢のときには、どのような生活をしてきたのかを絵や写真から読み取らせ、見たことがない道具について使い方を予想したり、考えたりして、調べ学習への興味・関心をもたせることができる。昔の道具には、七輪や洗濯板、かまど、電話機などが例示され、児童にとっては分かりやすく体験しやすいものが多い。中でもかまどは、ご飯を炊くといった、毎日の食につながる道具であり、人々の生活の中心にある道具である。かまどにはご飯を炊く以外にも、「風を通す」「虫をはらう」などの役割もあり、家のつくりとその利活用についても学習を進めるのに扱いやすい。

また、昔の道具を調べたり、体験したりすることで、それを使っていたころの暮らしの様子を知ることができる。加えて、人々の生活の今昔の違いや移り変わりには、過去の生活における人々の生活の知恵や工夫、人々の願いがあつたことに、この教材を通して気付かせたいと考える。

○児童について

本学級の児童は、社会科の学習に意欲的な児童が多く、校外に出て見学へ行ったり、ゲスト

ティーチャーの方から話を聞いたりする活動には、積極的に取り組むことができる。具体的には、見学先から一通りお話を聞いた後の時間、疑問や不思議に思ったことなどを、活発に質問をする児童の姿が多数ある。また、学習のまとめとして、新聞を作成する際には、3年生なりに、絵やイラストを入れ、クイズ形式の記事を書き、最後に自分の考えを書くなどの工夫をしている。

見学などから帰った際には、「見学先でお世話になって、何かできることはないかな。」と話す、すぐに「お手紙を書こう。」と述べ、熱心にお礼の気持ちを書くことができる。そして、2学期に2回、3学期に1回と、自分たちで見学先に電話をし、アポを取る経験もしている。これにより、「自分たちでお願いをしたのだから、責任をもって見学しよう。」と主体的に学習に向かうことができていた。

校区の実態としては、核家族が多い。校区周辺に祖父母が暮らしている状況も多少はあるが、祖父母と一緒に生活している児童の割合は少ない。また、地域の様子としては、住宅地が中心で、ニュータウンとなっている。そのため、畑や田んぼ、神社やお寺など、古くから残る建物などは、校区内にほとんどない。また、校区の特性として高学年になると中学受験をする児童が多く、学習塾通いの児童が多い。低、中学年であっても様々な習い事に通い、帰宅後に友達とゆっくり遊ぶ時間はあまりない児童の状況が伺える。

昔のことについては、1年生の生活科で、お手玉、めんこ、こま、あやとりなどの「昔の遊び」について学習している。3年生の秋の遠足では、奈良民俗博物館に行き、昔の道具やくらしの様子について、古民家を見学したり、展示スペースを見て回ったりした経験はしている。また、冬休みの宿題で、普段会う機会の少ないご年配の親戚の方やお家の方に、昔の様子についてインタビューをしているこの学習を通して、昔の道具や生活の移り変わりを調べることで、昔の生活の中での子どもの役割や、家族の交流などの時間があったことなどにも触れ、今の生活にはない良さについても考えさせたい。

○指導について

本単元では、見つめるの段階で、児童の実態や経験と照らしながら、児童自らが見たり聞いたりしたことを、実際に調べたり、体験したりする活動を取り入れる。導入には、昔の道具について知り、七輪でおもちを焼き、洗濯板で靴下を洗う。実際に使うことで、道具の便利さや不便さなどに気付き、それを使っていた人々の生活について考えられるようにしたい。体験をした直後、概ね予想される児童の反応は、「昔の道具は手間がかかる」「大変、不便」「今の生活の道具の方がよい」等であろう。

そこで、ある程度昔の道具やくらしについて調べた後、そのような見方をしている児童に、秋の遠足時の見学で、民俗博物館の学芸員さんからお聞きした話を紹介する。

○学芸員さんから聞いたお話：古民家のかまどの前で

- ・象印マホービンの商品開発者さんが、最新の炊飯ジャーを開発するにあたり、民俗博物館のかまどを研究されました。
- ・かまどには、ご飯を炊くだけでなく、いろいろな役割があります。

このような話を聞いたことを思い出させ、「新しい商品を開発するのに、どうして昔の道具を調べたのだろう。」という学習問題を軸に、展開を進める。そして、象印マホービンの開発者さんをゲストティーチャーとして招き、お話を聞く機会を設定する。最新の炊飯ジャーを開発するにあたり、かまどから学んだことや、それを使っていた人々の知恵や工夫を知る学習につなげたい。これに合わせて、炊飯ジャーは、ご飯を炊くという一つの役割であるが、かまどには、ご飯を炊く以外の役割があることについても改めて学習する。加えて、昔の家のつくりの中での、かまどの利活用にも着目させる。これについては再度、民俗博物館の学芸員さんから、お話を聞く。

これにより、「昔は不便、今は便利でよい」という単純なものではなく、昔の道具や家のつくりには、昔の人々の知恵により培われ、システム化された利活用があることにも気付かせたい。

このような手順を踏まえることで、単元当初にもっていた、昔の道具やくらしの様子についての見方を転換させることができ、昔と今のそれぞれの良さを比べながら、新たな発見や気付きに向けて、児童の思考を働かせることができると考える。

ふかめる段階では、ねり合いのテーマに、「昔の様子からくらべると、人々のくらしは便利になったけれど、失ってしまったものって何だろう。」と設定する。今までの学習をふり振り返りながら、「昔のくらしは、〇〇だったけれど、～だ」「今のくらしは〇〇だけれど、～だ」などと話し合う。そうすることで、便利さばかりを求めるのではなく、より良いくらしを送るために必要なことや大切にしたいことについて、考えさせることに迫りたい。

また、学習のゴールに、「まみいち今昔のくらし交流会」と題して、発表会をする。これにより、体験したり、調べたり、聞いたりしたことを適切にまとめ、発信できる力を養いたい。主な発表の機会は、3年生の最後の参観で保護者に伝えることにする。また、まとめた学習成果物を民俗博物館で展示させてもらうことを伝え、児童の意欲を高められるようにしたい。加えて、可能であれば、学年間や他学年への発表する機会も設定したいと構想している。

4 ESDの観点

① ESDの視点

○公平性：昔の道具や人々の生活の中で、培われた先人の知恵や工夫、願いなど、昔の人の営みから学べる現在にも残っているもの、こと。

② ESDの資質・能力

○システムズシンキング

- ・昔から受け継がれてきた生活の様子や生活用具の変化
- ・昔の道具と家のつくりの利活用
- ・人々の工夫や願い →豊かなくらし

○クリティカルシンキング

- ・昔の道具と今の道具を比較
- ・デメリット→メリットの気付き

③ ESD で育てたい価値観

○昔から培われてきた先人の知恵や工夫、願いがあつたからこそ、現在のくらしが豊かになっていることを知り、今後の生活に活かそうと考えられる態度。

④ SDGs の貢献

○目標 7：エネルギー

・昔の道具の役割や家のつくりの利活用、昔の人の知恵や工夫について学び、今の生活で大切にしなければならないことに気付く。

○目標 11：持続可能な都市





・便利さばかりを求めるのではなく、土地や資源に負担をかけない生活の仕方やそこに住む人にとって安全に暮らせる住環境について、考えることができる。

5 評価規準

| ア 社会的事象についての 知識・技能 | イ 社会的事象についての 思考・判断・表現 | ウ 社会的事象・学習への 主体的な態度 |
|---|---|--|
| ① 昔の道具や人々の生活の変化には、過去の生活における人々の知恵や工夫があつたことを理解している。 ② 昔の道具やそれらを使っていたころの生活について、必要な情報を集め、聞き取りや体験したことをまとめている。 | ① 昔の道具やそれらを使っていたころの人々のくらしには、昔の生活における人々の知恵や工夫、人々の願いがあつて変化してきたことを考え、適切に表現している。 ② 昔の道具や人々の生活の様子を捉え、今の生活との関連を考え、適切に表現している。 | ① 昔の道具やそれらを使っていた人々の生活の様子に関心をもち、意欲的に調べたり考えたりしている。 ② 昔から受け継がれている知恵や工夫を調べ、今後の生活に活かそうとする態度を表している。 |

6 単元計画（全 16 時間）

| 段階 | 主な学習活動 | 指導上の留意点 | 評価 |
|-----------------------|--|---|------------------|
| | ○大和民俗博物館（秋の遠足で見学/10月） ○お家の人へのインタビュー（冬休みの宿題） | | |
| み つ め る ④ | ○昔と今のくらしのようすをくらべよう。① ・古い建物や道具の写真を見て、今と違うところや同じところを見つけて話し合う。 <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 昔のくらしでは、どのような道具が使われていたのだろう。 </div> ○昔の道具をどのように使うのか考えよう。② | ・子どもたちの関心が高まるようにクイズ形式で提示する。 ・班ごとに、七輪と洗濯板を渡し、 | ウ① イ① |

| | | | |
|-----------------------|--|---|--------------|
| | <p>・班ごとに、七輪と洗濯板について、どのように使うのかを話し合う。</p>  <p>○昔の道具を使ってみよう。(七輪・洗濯板) ③④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な火おこしからおもちを焼く。 ・自分が履いていた靴下を洗う。   <p>→他の道具のことも調べてみたい!</p> | <p>使い方を予想したり、考えたりさせる。</p> <p>・七輪と洗濯板を使って、昔の人の生活を体験させる。</p> | ウ① |
| し ら べ る ⑦ | <p>○昔の道具には、どんなものがあったのだろう。⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の道具カードにまとめる。  <p>○昔の道具は、どんなふうに移り変わってきたのだろう。⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵年表シートにまとめる。 <p>※かまど→炊飯ジャー</p> <p>→昔の道具は 不便 大変!</p> <p style="border: 1px solid green; padding: 5px; text-align: center;">新しい商品を開発するのに、どうして昔の道具を調べたのだろう。</p> | <p>・家事、農具、生活などの項目ごとに書籍などの資料を用意する。</p> <p>・簡単な絵年表にまとめさせる。</p> <p>・遠足で、聞いた象印さんの話を紹介する。</p> <p>・アポ取りの話をする。</p> | ア② ア② |
| | <p>○ゲストティーチャーさんにお話を聞こう。⑦⑧ (象印開発者さん&民俗博物館学芸員さん)</p> <ul style="list-style-type: none"> →昔の人はすごいんだ! →昔の道具には、役割がいくつもある!? | <p>・ゲストティーチャーの話から、昔の人の知恵や工夫に着目させる。</p> <p>テーマ：「温故知新」</p> | ウ② |



○昔の道具は、家の中でどのように使っていたの
だろう。⑨

- ・家のつくりワークシートにまとめる。
- ➡昔の道具や人々の暮らしには、工夫や知恵がある！

**昔と今の道具や人びとの暮らしには、どんなちがいがあ
るの**

○昔の道具と今の道具をくらべよう。⑩

- ・かまどと炊飯ジャー、洗濯板と洗濯機の特徴を
比べ、それぞれの良さなどについて話し合う。

○おじいちゃんや、お母さんが子どものころは、
どんな暮らしをしていたのだろう。⑪

- ・調べてきたことをワークシートにまとめる。

- ・家の中のつくりや道具の用途、道具の利活用について、着目させる。
- ・民俗博物館で、学芸員さんから聞いた話を振り返らせる。

ウ②

- ・それぞれの道具の特徴をおさえた後、班に分かれて、話し合わせる。

イ②

- ・インタビューの内容を項目ごとに発表させる。(学校、遊び、おやつ等)

ア①

| | | | |
|--------------|---|---|---|
| <p>ふかめる④</p> | <p>○昔と今のくらしをくらべよう。⑫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔と今のくらしをくらべて、便利になったけど、失ったことなどについて考え、話し合う。 ➡くらしは豊かになって、時間もあるけれど… <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; text-align: center;"> <p>昔の様子からくらべると、人々のくらしは便利になったけれど、失ってしまったものって何だろう。</p> </div>  <p>➡昔のくらしの良さも大切にしたいな!</p> <p>○昔からのくらしのうつりかわりは、今の自分たちのくらしと、どうつながっているのだろうか。⑬</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んできたことをふり返り、ワークシートにまとめる。 <p>○調べて分かったことを、まとめよう。⑭⑮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目ごとにグループに分かれて、模造紙にまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・便利な電化製品などが増え、余暇の時間ができ、くらしが豊かになったことをつかませる。 <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習したことを、振り返えらせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・より良い生活を願う人々の思いは変わらないことに気づかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ方を確認し、発表など計画や見通しを持たせる。 | <p>イ②</p> <p>イ②</p> <p>ア②</p> |
| <p>ひろげる①</p> | <p>○参観日に発表しよう。⑯</p> <p>○まとめたことを、発表しよう。(学年交流)</p> <p>○民俗博物館に展示してもらおう。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ・どのように発表すれば、聞き手に伝わりやすいかを考えさせる。 | <p>ウ②</p> |

7 成果と課題

○成果

単元の導入では、昔の道具の使い方を自分たちで考え、予想することで、学習への動機付けになった。次に、「七輪」と「洗濯板」を使う体験を行った。実際に、七輪を使うために火をおこしたり、寒い中靴下を洗ったりという体験をすることで、学習を自分事に近づけることができた。

単元の途中には、「新しい商品を開発するのに、どうしてわざわざ昔の道具を調べたのだろ

う。」という学習問題を設定し、自分たちだけでは解決できない事柄について、象印マホービンの開発者さんと民俗博物館の学芸員さんをゲストティーチャーとして招き、お話を聞く出前授業を設けた。これにより、疑問に思っていたことや、不思議に思っていたことについて問題解決ができ、昔の人の知恵や昔の道具と家のつくりの利活用、受け継がれてきた人の営み等について学習することができた。

ある程度、学習が習熟してきた単元の最後には、「昔の様子から比べると、人々のくらしは便利になったけれど、失ってしまったものって何だろう。」という学習問題に沿って、児童同士が意見交流をした。少し難しいテーマと危惧していたが、「かまどと炊飯ジャーを比べると味が変わった」「今のくらしは、AIに頼りすぎているから、人の力」「今は何でも買ってしまうから、近所からものを借りるなどの人付き合い」「できることやものが増えた分、今の時代は、忙しい。だから家族の時間」等、3年生ながらに考えた意見が多数あった。このような学習機会を設けることで、昔のくらしは「大変」「不便」や今のくらしは「楽」「便利」という単純なものではなく、昔のくらしの中にある良さ、不便の中にある良さなどについて、気付かせることができた。

また、学習のゴールに、調べてきたことをグループでまとめ、参観日で発表するという機会を設けたことで、人に伝える力や情報をまとめる力を養うことができた。加えて、学習成果物(模造紙)を大和民俗博物館で、展示してもらおうようにした。そうすることで、校外の一般のお客さんにも、自分たちの学びの成果を見てもらえるという意欲を高めることができた。

○課題

昔の道具は、ものによって江戸時代や明治時代等、古くから使われているものもある。3年生の児童にとって、初めての歴史学習になるので、30年前から60年前と基準をもう少し固定する必要がある。

単元の途中で、昔の道具と今の道具を比較する時間があった。このようなときに、「自分が使うならどちらですか」(AorB)といった簡単な問いから、スモールステップで、最後の問題につなげると、ねり合いがステップアップできたかもしれない。

学習のゴールは、調べて分かったことや考えたことを発表し、発信する形だけで終わっている。ここから更に、児童が考えた今のくらしに生かせることや大事にしたいことなどを実際に行動に移したり、他者に提案したりするといった行動化の要素を取り入れることが有効であると考えた。そのためには、社会科の学習と総合的な学習の時間とをつなげ、授業時数の兼ね合いを考慮し、カリキュラムマネジメントを行う必要がある。これらは今後の課題とし、これからの実践や指導方法の構築を目指したい。